

カトリック八尾教会ニュース



2021年3月

【今月の予定】

ミサの時間

Tháng ba

7日(日) 四旬節第3主日	9:00	①グループ (A地区+ベトナム1)
	11:00	③グループ (C1地区+ベトナム3)
14日(日) 四旬節第4主日	9:00	②グループ (B地区+ベトナム2)
	11:00	④グループ (C2地区+ベトナム4)
		▲アウグスト・バンバール神父様追悼ミサ(2000年3月17日帰天)
		・小教区評議会 (13:00~)
17日(水・祝) 日本信徒発見の聖母	-----	
19日(金・祭) 聖ヨセフ	-----	
20日(土) 教区召命の日	-----	
21日(日) 四旬節第5主日	9:00	③グループ (C1地区+ベトナム3)
	11:00	①グループ (A地区+ベトナム1)
ベトナム語のミサ	15:00	
25日(水・祭) 神のお告げ	-----	
28日(日) 受難の主日(枝の主日)	9:00	④グループ (C2地区+ベトナム4)
	11:00	②グループ (B地区+ベトナム2)



かわちブロック司祭ローテーション表 2021年3月

		八尾 9:00, 11:00	枚岡 9:00	布施 11:00
3月7日	四旬節第3主日	安、安	野田	上田
3月14日	四旬節第4主日	上田、上田 評議会	野田	野田
3月21日	四旬節第5主日	野田、野田 15:00 ベトナム語ミサ	上田 評議会	安
3月28日	受難の主日	安、安	野田	上田、野田 評議会

■四旬節キャンペーン

(カリタスジャパン)

2021年四旬節 教皇メッセージ 『今、わたしたちはエルサレムへ上って行く……』

四旬節 — 信仰、希望、愛を新たにする時 —

(マタイ 20・18)

※教皇メッセージが掲載されている『四旬節キャンペーン小冊子』もご利用ください。

■「みことばの分かち合い」3月と



離任のごあいさつ

担当司祭：野田正弘

ずいぶん暖かい日も増えてきた今日この頃ですが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。ここ1週間ほど、大阪府の新規感染者数も100人以下に減少し、重症者ベッド利用者数も50%を切ってまいりました。それを受けて大阪府知事も2月末日をもって「緊急事態宣言」の解除を政府に要請するとの決定がなされました。それで各教会のスタッフとも相談をし、2月末もしくは3月からミサを再開することになりました。しかし、その喜びとは裏腹に先日、大阪教区の人事異動が発表されました。私はかわちブロックにお世話になってまだ5年ですが、異動が命じられました。あと5年はかわちブロックに残りたかったのですが、教区全体の人事の都合があるようで、残念です。復活祭以後は、上田神父様のご指導の元、よりよい共同体を作っていくことを祈りつつ、残りの主日のミサをともにささげる喜びを味わいたいと思っております。少し早いですが、大変お世話になりました。ありがとうございました。

四旬節第3主日 3月7日 福音：ヨハネ 2:13-25 この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる

イエスさまの時代のエルサレム神殿は、壮麗でとても立派なものでした。しかしその神殿もローマの軍隊によって徹底的に破壊されました。目に見えるものは、どんなに立派なものでも過ぎ去っていきます。目に見えるものの素晴らしさととらわれ、執着するのではなく、目に見えないもの、家族への愛、隣人への愛、神様への愛を目指していく人生の確かさをイエスさまは教えておられます。

四旬節第4主日 3月14日 福音：ヨハネ 3:14-21 神が御子を世に遣わされたのは、御子によって世が救われるためである

今日の入祭唱に「喜べ」と重ねて言われているように、四旬節のこの主日は、喜びの主日とも呼ばれています。私たちが四旬節の犠牲を守っているちょうどその時に、私たちは復活の喜びを先取りして喜ぶのです。それは罪の悔い改めと、私たちが神から愛され、ゆるされているという事実から生じてくる喜びです。十字架に上げられ、死んで復活されたキリストを通して主に立ち返ることが出来るように祈りましょう。それによって信じる人は皆、永遠の命を得ることが出来るのですから。

四旬節第5主日 3月21日 福音：ヨハネ 12:20-33 一粒の麦が地に落ちて死ねば、多くの実を結ぶ

花や野菜などの植物を育てる人は皆、種が芽を出し、育ち、収穫をもたらすためには、土の中に死ななければならないことを知っています。同じように、イエスさまは私たちにより良いのちを与えるために死なれました。今日の福音でイエスさまは「私は地上から上げられる時、すべての人を自分のもとに引き寄せよう」と言っておられます。私たちはキリスト者として、キリストの生き方を手本としています。それ故、私たちはキリストの自己犠牲のあとに従うよう招かれています。親切さと寛大さをもって、他の人が幸せに生きることが出来るように私たちが自身を与えなければなりません。今日、神様に自己犠牲の恵みを祈りましょう。

受難の主日 3月28日 福音：マルコ 15:1-39 本当にこの人は神の子だった

他の人に宣教する、イエスさまを伝えるということは大変むずかしいことです。特に自分の家族にイエスさまを伝えることは至難の業と言えるかもしれません。しかし今日の福音では、異邦人である百人隊長がイエスさまを「神の子」と認めています。どうして十字架の上のイエスさま、全く弱く見えるイエスさまの姿に神の子を見出したのでしょうか。それは兵士たちが言った「他人は救ったのに、自分は救えない。」という言葉にヒントがあると思います。その言葉の通り、イエスさまは一生を通して、自分のことよりもまず他人のことを優先させて毎日を過ごしてこられました。他人が第一、自分は二番目という姿勢を生涯貫かれました。それを見ていた百人隊長がイエスさまを神の子と認めたのです。私たちが他人が第一、自分は二番目という姿勢で生きることを目指せば、それが一番よい福音宣教になりますし、イエスさまの弟子であるしるしになると思います。そういう生き方ができるように、今日一緒に祈って参りましょう。